

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	小鳩ナーサリースクールー之江
施設所在地	一之江7-41-15ドエルグリュック 1 階
事業所名	株式会社チャイルドピース

1. 活動のテーマ

<テーマ>

コーナー遊びで広がる子どもの興味関心

<テーマの設定理由>

「子どもが自分で遊びを選び、やりたいことや興味のあることを楽しめる環境」の充実を図ることで、子どもが工夫したり試したりして遊びを楽しみ、興味関心をさらに広げたり深めたりするきっかけとなるようにテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

【第1回】2月18日（火）1.2歳児・異年齢児保育

保育観察 16:00～16:45

カンファレンス 16:45～17:30

【第2回】3月11日（火）1.2歳児・異年齢児保育

保育観察 16:00～16:45

カンファレンス 16:45～17:30

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

各コーナーに必要な玩具、素材等を用意し、遊びが発展し深まることの楽しさを味わえる環境を構成した。

○電車や車などのコーナー：ブリオ、車など

○ままごとコーナー：キッチンセット、人形のベッドや布団、エプロン、小さな手提げバッグなど

○パズルなどで遊ぶコーナー：パズル、重ねコップ、ひも通し、プットインなど

○絵本コーナー：年齢や季節に応じた絵本を見やすく、取り出しやすいように置く。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・生活や遊びの中で見たり経験したりしたことを取り入れてあそぶ。
- ・室内にある様々なものに興味をもち、それらを使って遊んだり、探索したりすることを楽しむ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・人形を片手に抱いて、「おなかいたいの?」と言い、椅子を持ってきて、人形を寝かせる。人形の前に自分も座り、人形の服を脱がせて、マグネットの玩具を聴診器に見立てて診察の真似をしているA児。それを見たB児も同じように椅子を運ぶが、人形を座らせて、マグネットの角を人形の腕にあて「チクンするよ」と注射の真似をしていた。子どもによってお医者さんのイメージや診察の仕方が違うことで、それぞれが経験したことを遊びの内容から読み取ることができた。
- ・ままごとのコーナーで、C児はお皿にじゃがいもやパンを乗せて保育者に「どうぞ」と渡し、保育者は「いただきま〜す、もぐもぐ…美味しい〜」と応えらるとにっこり笑って、次々とお皿に乗せて遊びを繰り返した。保育者の反応を楽しみにしている気持ちが感じ取れたので、「う〜ん、すっぱい!」「これはから〜い!」と出される食材に応じて言葉や表情を変えると声を出して笑っており、それを聞いたD児も遊びに入ってきた。D児はみかんと包丁を手にとり、皮むきのような動作をしていて、お母さんのイメージで遊んでいる様子だった。自分が見たり経験したりした内容を遊びの中で表現し、楽しんでいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・1歳児なり、2歳児なりに自分の経験したことが遊びに反映されていることがわかった。一見すると同じ場で同じような遊びをしているように見えるが、同じ「お医者さん」でも子どもによってイメージが違うため、よく観察することで子どもの遊びの違いに気づくことができると感じた。
- ・保育者の援助によっては繰り返しの中でも違いに気づいて、“次はどんな反応をするのかな?”という期待を感じ、子どものイメージに合わせて応答的に関わることの大切さを実感した。
- ・使った玩具はそのままだと、出たものに興味を示すことがほぼなかったため、人形の洋服を着せたらベッドに寝かせておいたり、玩具を元の場所に入れたりして環境を再度構成することで、また遊びが始まるのがわかり、保育者がこまめに整えていくことが大切な援助だと感じた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	小鳩ナーサリースクールー之江
施設所在地	一之江7-41-15ドエルグリュック 1 階
事業所名	株式会社チャイルドピース

1. 活動のテーマ

<テーマ>

コーナー遊びで広がる子どもの興味関心

<テーマの設定理由>

「子どもが自分で遊びを選び、やりたいことや興味のあることを楽しめる環境」の充実を図ることで、子どもが工夫したり試したりして遊びを楽しみ、興味関心をさらに広げたり深めたりするきっかけとなるようにテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

【第1回】2月25日（火） 3.4.5歳児・異年齢児保育
保育観察 16：00～16：45
カンファレンス 16：45～17：30
【第2回】3月18日（火） 3.4.5歳児・異年齢児保育
保育観察 16：00～16：45
カンファレンス 16：45～17：30

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

各コーナーに必要な玩具、素材等を用意し、遊びが発展し深まることの楽しさを味わえる環境を構成した。

- 製作コーナー：空き箱、トイレットペーパーの芯、紙コップ、牛乳パック、テープ類各種など
- 電車やブロックなどのコーナー：ブリオ、ブロック各種など
- ままごとコーナー：キッチンセット、人形の布団、エプロン、小さな手提げバッグなど
- パズルやゲームで遊ぶコーナー：パズル、オセロ、ジェンガ、トランプ、ウノなど

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・製作コーナーでは様々な素材を遊びにとりこみ、見立てたり組み合わせたりして遊びを楽しむ。
- ・身近な人になりきったり、物を何かに見立てたりしながら、経験したことを遊びに取り入れて自分なりに工夫して楽しむ。
- ・友だちと関わる中でよさに気づき、一緒に遊ぶ楽しさを味わう。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

製作コーナーにて、アイスクリームのコーンを画用紙で作り、カラーボールを持ってきてそれを乗せてアイスクリームに見立てていた。カラーボールが転がった先に様々な素材を入れていた箱があり、そこからトイレットペーパーの芯や、牛乳パック、お菓子の空き箱などを取り出した。それらを机の上に並べて立て、カラーボールを転がしてボウリングのような遊びを始める。B児が「何してるの?」と興味をもち、大きいボールを持ってきて「僕にもやらせて」と言う。カラーボールでは箱は倒れないが、大きいボールでは簡単に倒れる様子を見てA児も大きいボールを持ってきた。それまでB児と一緒に遊んでいたC児、D児も「仲間に入れて」と言い、立てる空き箱の種類を増やし、誰がいくつ倒せるかを競っていた。「僕が倒したらAくんが直して」と倒れた箱を戻す役割を決めたり、戻しやすいように箱の一角をテープで止めたりして、ひとつのことをきっかけにどんどん遊びが広がって行く様子が見られ、様々な材料や素材、教材などを置いておくことで子どものイメージが広がっていく様子が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・様々な素材、材料、教材を用意しておくことで子どもは気付いたり発見したりして、試していることがわかった。子どもの遊びに応じてさらにたくさんの素材や、自然物なども取り入れていきたい。
- ・A児が考えた遊びに興味を示したBくんが遊びに混ざったことで、Cくん、Dくんも遊びに加わり、大きさの違うボールを使うことでAくんが一人で遊んでいる時よりもおもしろさが増していった。
- ・友だちと一緒に遊ぶことで自然とルールを決めたり、役割分担をしたりして、楽しく遊ぶためにはどうするのかを伝えあっていた。保育者は子どもが自ら遊びを広げている時はあえて声をかけずに見守ることを大切にしたい。